

情報 FUKUOKA 第99号



トライ



九州旅客鉄道労働組合
福岡地方本部

発行責任者 岩永 康志
編集責任者 森永 克章

北九州市小倉北区室町3-137-1
NTT (093) 583-3385
JR (091) 4307~4308

春闘勝利・ベア獲得に決意を誓う

「福岡地本2014新春の集い」開く

福岡地本は1月11日、北信を述べました。(写真)

九州市で「2014新春の集い」を開き、関係労働団体や友誼団体、地本議員団、グループ労組の代表など多くの来賓が出席するなか、2014春季生活闘争をはじめ、中間地方選挙勝利にむけた取り組みなど、当面する諸課題の解決に全力で取り組んでいく決意を固めました。

主催者を代表して、岩永委員長は、「2014春闘は必ずベアを勝ち取らなければならない。福岡地本として、本部を後押ししながら、春闘勝利にむけての取り組みを強化していく。また、昨年9月に行った組織改正により、6支部体制が動き出した。組合役員との育成とともに、これからの若い組合員が、JR九州労組をリードしていく礎を築いていけるような組織を造ってきたい」と2点について所

その後のレセプションでは、参加者同士の融和を図りながら、2014春闘勝利をはじめ、中間地方選挙勝利にむけた取り組みや、組織機構の見直しなど、当面する諸課題の解決に、全力で取り組んでいく決意を参加者全員で確認し、最後に小山福岡地本青年・女性委員長の、力強い団結カンパローで締めくくりました。



福岡地本は、2014新春の集いのなかで、長きに渡り組合員の世話役活動に努められてきた元分会長に対し、これまでの功績を称え感謝状を贈りました。

永年分会長表彰は、福岡地本が独自の取り組みとして、毎年行っているもので、これまでも多くの方に贈られていきます。今回、感謝状を贈ったのは、高巢敏雄さん(前門司港運転区分会長)、山下止さん(前行橋駅連合分会長)、古川祐治さん(前唐津連合分会長)、塩田和久さん(前門司車掌区分会会長)の4名で、

古川さん、塩田さん
高巢さん、山下さん
4名に感謝状贈る
永年分会長表彰



岩永委員長より賞状と記念品が贈られました。

受賞者を代表して、前門司車掌区分会の塩田さんが挨拶し、「これまで10年間、分会長として世話役活動をやってきました。分会長としていろいろな経験をさせていただきましたが、気付かない点もあったと思う。今後、分会会をはじめ、JR九州労組のさらなる発展に寄与していきたい」と、謝辞を述べると、会場からは盛大な拍手が送られました。受賞された4名のみならず、これまでの世話役活動、大変おつかれさまでした。

JR九州旅行支店等統廃合

三つ提案を受ける

本部は1月22日JR九州旅行支店等の統廃合について会社側より提案を受けました。これを受け福岡地本は各職場集會を通じて意見・要求を集約し交渉窓口である本部に対し上申等を行い本部の専門協議会等を通じて改善に取り組んでいきます。

【JR九州旅行】
・JR九州旅行北九州団体支

店とJR九州旅行小倉支店の統廃合
・JR九州旅行西新店及びJR九州旅行姪浜店の廃止



ろうきんシステム変更

1月から、ろうきんのシステム変更に伴い給与天引後、一旦普通預金口座に入金され毎月28日に自動で引き落としが行われます。その間誤って払い出してしまったり引き落としが出来ず延滞となってしまうのでご注意ください。

【対象ローン】
証書貸付(住宅ローン・カーライフ・教育・ライフサポート)
カードローン(マイプラン・しあわせ安心プラン)

生活応援バンク ろうきん

給与控除日 25日 → 口座引き落日 28日

JR九州労組 福岡地方本部 第22回定期地本委員会

日時: 2014年3月8日(土) 10:30開会 (10:00より受付)

場所: ASCビル会議室

議事: 経過報告、当面する活動方針(案)、2014年度暫定予算(案)、その他

議案集

山下 敏治さん 元博多車掌区

○現在の家族構成 子供は3人と結婚し、今は夫婦仲良く生活しています。

○楽しみ 孫たちと仲良くする為に時々ゲームセンターで景品をゲットするのが楽しみです。しかし、100円ゲームもお金が掛かります...

○日課・趣味 カメラ、暇を見つけては色々な場所へ撮影に出掛けています。職場では私が撮った写真が活躍しています。

○旅行や計画 ローカル列車での旅を計画中

○JR最後の職場と近況について 博多車掌区が最後の職場でした。今は、JR九州鉄道営業(株)の遠賀川駅で働いています。業務はパソコン中心で苦勞していますが、若い社員に助けられながら楽しく過ごしています。

今何しよっと?

委員長のつぶやき

先日、NHK朝の連続ドラマを観ていると、地下鉄建設現場に掲げられていた「用心第一」の標識が目にとまりました。ふと、いつ頃「安全第一」と変遷し、浸透していったのだろうかとの疑問を感じたので、少し調べてみた。その概要を紹介したい。

▼欧米に百年近く遅れて近代化を開始した日本は、明治政府の強力な政策の下に産業革命が推進された。明治初期に産業の近代化を担ったのは生糸を中心とした繊維産業や石炭、銅石などを採掘する鉱業であったが、産業安全運動が展開されるまでにはかなりの時間を要した。▼国内で産業安全運動が導入されたのは明治末に古河鋳業会社(現古河機械金属)足尾鋳業所、通称足尾銅山と呼ばれる事業所で展開された「安全専一」運動が始まりである。▼指導的役割を果たした足尾銅山所長は1912年から「安全専一」と記した標識を坑内作業所に掲げ、1913年「鑛夫之友」を刊行し同誌に作業安全を喚起する講和を掲載するとともに1915年には安全心得読本を作成し作業員全員に持たせるなど、事業場での安全確保のために先駆的活動を展開した。▼その後、運動は引き継がれ、大正時代に入り、東京電氣(現東芝)工業部庶務課長のちに退社して安全運動に専念した工場内に国内初の事業所内安全委員会を組織し活動展開するとともに「Safety First」を安全第一と訳し、広く思想の啓蒙普及を図るために、「安全第一協会」を1917年に設立、1919年には、今なお実施されている安全週間運動や産業安全のシンボルマーク「緑十字」を企画するなど、たんに事業所内での活動に留めず、社会運動へと発展させた。(次回へ続く)